

## 68. カトマンズ盆地王宮広場周辺の生活空間に関する研究 —バクタプルにおけるダルマシャーラ・共同水場の配置特性—

1010920065 田原壮人  
指導教員 市川尚紀 准教授

バクタプル ダルマシャーラ 共同水場 ヒティ 配置特性

### 1. 序論

ネパール・カトマンズ盆地には、ネパール族の生活様式や生活環境、世界文化遺産に登録されている旧王宮広場や寺院に関する研究資料は数多く存在するが、旧王宮広場周辺に存在する伝統的な休泊所や共同水場などの、住民の生活に密接に関わっている世界遺産に関する資料は存在しない。しかし、その休泊所や共同水場は一般住民に開放され、住民の日常的なコミュニケーションや宗教的行為の場として利用されており、この都市空間を特徴づける重要な空間である。特にバクタプル市街地は、カトマンズ盆地中心部から東側約 12 km に位置し、自動車の交通規制を行っているため、街並みは維持され住民の生活風景を垣間見ることが出来る。

そこで本研究では、ネパールのカトマンズ盆地において観光客が増加しつつある現在でも、住民の生活風景やコミュニティが残っているバクタプル (Bhaktapur) 市街 (図 1) を対象とし、ダルマシャーラと共同水場の分布とそれらの配置特性を明らかにする。

調査は 2013 年 8 月 9～14 日、19 日、23～25 日の計 9 日間行い、全域踏査や実測調査、主要街路の空間観察を行い、ダルマシャーラ・共同水場の配置特性を考察する。

### 2. 結果と考察

#### 2.1 ダルマシャーラの機能と分布

ダルマシャーラ (dharmasala) とは、ネパールにある誰でも利用可能な無料の伝統的な休泊所である。巡礼者や沐浴をする人のために建てられ、現地住民が休憩・交流する場としても利用されている。

踏査の結果、この地域にはダルマシャーラが 90 ヶ所存在することが分かった (図 4)。密度が高いエリアでは、9 ヶ所/0.001k m<sup>2</sup>で、平均密度は 1 ヶ所/0.12 k m<sup>2</sup>であった。また、対象地域の街路の総延長は 5.6 km あり、ダルマシャーラは平均すると 60m に 1 ヶ所存在することになる。この間隔は、国土交通省が定める「地下街に関する基礎方針」に記載されている地下街の階段の設置間隔の最低値と同じである。

これらのダルマシャーラは、①一般の住宅の 1 層部分に設けられているピロティ型、②独立して存在する独立型、③住宅などの建築物と壁面を共有し、建築物に付随

している外付け型に分けられる (図 2)。

- ①ピロティ型：この型は 29 ヶ所あり、住宅地に多く分布する傾向があるとみられ、特に小規模のものが多かった。
- ②独立型：この型は 22 ヶ所あり、主要街路や道路沿いに分布していた。また、主要街路には規模の大きいものが多くあり、それは貿易商の人々や巡礼者たちの参拝や厳しい修行のために建てられたのではないかと思われる。
- ③外付け型：この型は 39 ヶ所と分布数が最も多く、地域の北東部に集中していた。

#### 2.2 共同水場の機能と分布

共同水場とは、住民が自由に利用できるヒティ (Hiti) や井戸、水栓のことを指す。ヒティは、他の宮廷広場にも点在しており、住民の沐浴や洗濯、生活水の給水などに利用されている。

踏査の結果、共同水場が 75 ヶ所存在することが分かった (図 4)。密度が高いエリアでは、8 ヶ所/0.001 k m<sup>2</sup>で、平均密度は 1 ヶ所/0.145 k m<sup>2</sup>であった。また共同水場は平均すると 75m に 1 ヶ所存在することになる。この間隔は管きよ (径=<600 mm) の直線部のマンホールの最大間隔と同じである。

これらの共同水場は、①ヒティ・貯水型、②ヒティ・非貯水型、③水栓型、④貯水型に分けられる (図 3)。なお、破損して形態判別ができないものが 3 ヶ所あった。

- ①ヒティ・貯水型：この型は 2 ヶ所あり、市街入口と Nasamana 広場内に分布していた。市街入口のヒティは、ダルマシャーラ裏手の見えにくいところに存在しており、利用されなくなっていったため水質も悪かった。
- ②ヒティ・非貯水型：この型は 28 ヶ所あった。地域全体に分布しており、規模も様々である。街路の中や、街路と道路の辻に、小規模のものが多く分布していた。
- ③水栓型：この型は 17 ヶ所あり、ほとんどがダルバール広場より南側に分布していた。これはヒティがない、もしくはヒティまでの距離が遠い場所に設けて、住民の生活をより便利にさせたのではないかと思われる。
- ④貯水型：この型は 25 ヶ所あり、地域の北東部に多く分布していた。

#### 2.3 主要街路におけるダルマシャーラ・共同水場の配置

ダルマシャーラと共同水場の型が多く存在する主要街

路を図 5 に示す。街路西には、外付け型とピロティ型のダルマシャーラが各 2 ケ所、独立型が 1 ケ所あり、共同水場は貯水型 1 ケ所、水栓型が各 1 ケ所あった。ダルマシャーラは、4/5 ケ所が街路の「辻」に位置しており、どれも数人が休憩に利用していた。また、ダルマシャーラ③と共同水場①がある「辻」には、それらの前で商いをしている人がいた。街路中央には、独立型のダルマシャーラが 3 ケ所、ピロティ型が 4 ケ所あり、共同水場はヒティ・貯水型と貯水型が各 1 ケ所、ヒティ・非貯水型が 2 ケ所あった。街路中央には「Nasamana 広場」があり、ダルマシャーラと共同水場も「Nasamana 広場」の周辺に集中している。街路東には、独立型と外付け型のダルマシャーラが各 2 ケ所あり、共同水場はヒティ・非貯水型と貯水型が各 1 ケ所あった。この地域は、大きな街路の「辻」を中心にダルマシャーラや共同水場が分布している。図 5 に示す独立型ダルマシャーラ⑬では、散髪を行って商売をしている人や内職をしている人がみられた。また共同水場⑧は、ヒティとしての役割ではなく工芸品である壺の乾燥場としても利用されていた。

3. まとめ

ダルマシャーラは、形状の違いにかかわらず調査対象地全域に分布していたが、共同水場の水栓型はヒティがない地域に、大規模のヒティ・非貯水型は「広場」内や「広い街路沿い」、小規模のものは「住宅地」や「辻」に分布していた。主要街路のダルマシャーラは、「辻」にピロティ型が、「広場」周辺に独立型に独立型があり、ヒティはダルマシャーラに隣接していた。

参考文献：1) Rantna Pustak Bhandar : THE TRADITIONAL ARCHITECTURE OF THE KATHMANDU VALLEY, BIBLIOTHECA HIMARAYICA, 2007  
 2) 黒津高行：パタン市における水場ヒティの分布と空間構成について、日本建築学会計画系論文集 NO71, pp.621-624, 2001.3  
 3) 佐藤正彦：ヒマラヤの寺院 ネパール・北インド・中国の宗教建築、鹿島出版会、2012.1

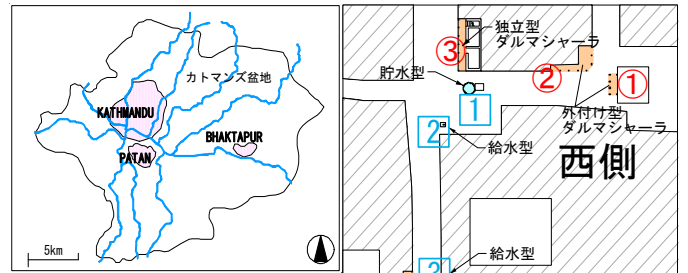


図 1 カトマンズ盆地



ピロティ型	一般住民の住宅の1階部分にダルマシャーラが設けられている
独立型	住宅などの建築物と壁面を共有し、建築物に付随している
外付け型	ダルマシャーラ自体が独立して存在する

図 2 ダルマシャーラの分類



ヒティ・貯水型	ヒティでお且つ貯水されているもの
ヒティ・非貯水型	ヒティで貯水されていないもの
水栓型	ヒティの定義から外れたもので、水栓が独立または建物と一体となっているもの
貯水型	井戸と貯水タンクのもの

図 3 共同水場の分類

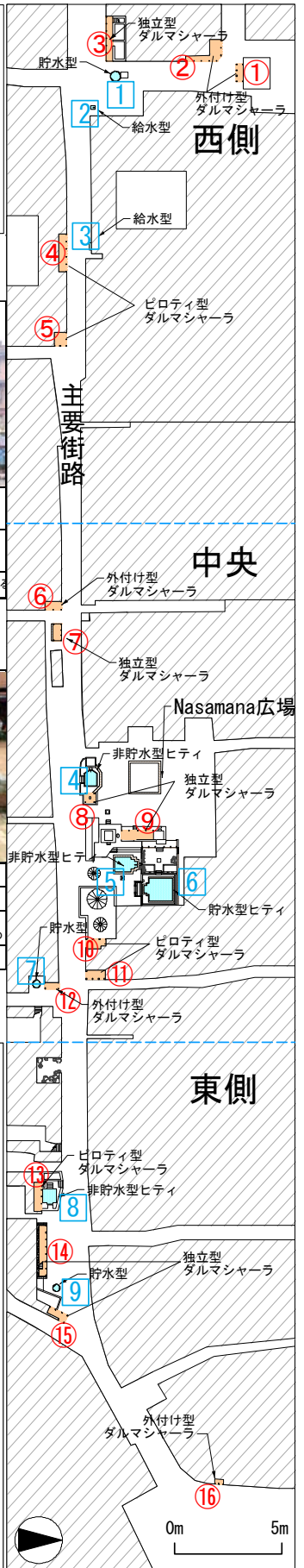


図 5 主要街路

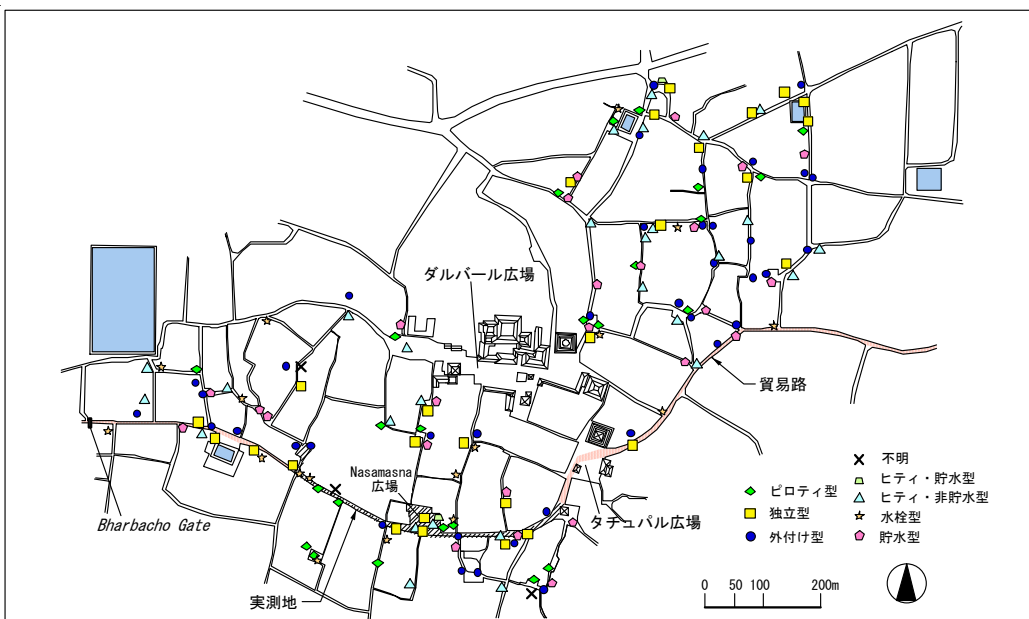


図 4 バクタプルにおけるダルマシャーラ・共同水場の分布